

くすりのしおり

620007470

2008年10月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：フォリスチム注 600IU カートリッジ

(剤形写真)

主成分：フォリトロピンベータ（遺伝子組換え）
(Follitropin beta (genetical recombination))

剤形：注射剤 カートリッジ リムキャップ 金色

シート記載：



この薬の作用と効果について

このお薬は、ヒト卵巣刺激ホルモン製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
女性の卵巣に働きかけ、複数の卵巣を発育させる薬です。
医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者または家族の方は、自己注射できます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。
- ・卵巣、乳房、子宮、下垂体または視床下部に腫瘍がある。原因不明の性器出血がある。
- ・多のう胞性卵巣症候群を原因としない卵巣のう胞または卵巣腫大がある。
- ・妊娠又は妊娠している可能性がある。授乳している。
- ・他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** ◀ : 医療担当者記入 ▶
- ・ 通常、1日 150 又は 225 国際単位を 4 日間専用のペン型注入器を用いて皮下又は筋肉内投与します。その後は卵巣の発育程度を観察しながら用量を調整（75～375 国際単位を 6～12 日間）する。卵巣の十分な発育を確認後、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン製剤により排卵を誘起する。必ず指示された投与方法に従ってください。
- ・ 注射の忘れに気がついたときに 1 回分を注射してください。気がついた日が次の注射日に重なった場合は、前回忘れた分は注射しないでください。1 日に 1 回を超えて使用しないでください。いずれの場合も医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 誤って多く注射した場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で注射を止めないでください。

生活上の注意

- ・ 自分自身で注射を続けられないと感じた場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。また、自分自身で注射をした場合に副作用と思われる症状があらわれた場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、卵巣過剰刺激症候群、血栓塞栓症、流産・子宮外妊娠・多胎妊娠、アレルギー反応などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

- * 卵巣過剰刺激症候群：吐き気、嘔吐（おうと）、下腹部の痛み、腹部が張る感じ
- * 血栓塞栓症：血を吐く、吐き気、嘔吐（おうと）、胸の痛み、胸をしめつけられる感じ、胸を強く押さえた感じ、激しい腹痛、腹がはる、足の激しい痛み、出血、知覚のまひ

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ (注射部位の)皮下出血・痛み、熱を持った痛み、局部が充血し赤くなる、腫れ、かゆみ、(注射部位の)痛み
〔(注射部位)の挫傷、発赤、腫脹、疼痛〕
- ・ お腹の痛み（婦人科系）、食欲不振、お腹下部の痛み、腰の痛み
〔腹痛(婦人科系)、卵巣疾患〕
- ・ お腹の痛み（消化器系）、吐き気
〔下腹部痛、嘔気、腹痛〕
- ・ 頭の痛み
〔頭痛〕
- ・ お腹の腫れ、お腹の張りを感じる
〔腹部腫脹、腹部膨満〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・凍結を避け、2～8℃で光を避けて保存してください。但し、有効期限内に3ヶ月は室温（25℃以下）保管可能です。
- ・使用開始後28日間を超えたものは使用しないでください。
- ・使用済みの注射針、空のカートリッジについては、医療機関の指示どおりに廃棄してください。
- ・このお薬は専用のペン型注入器と専用の注射針を用いてご使用下さい。
- ・このお薬とペン型注入器は個人専用で使用するものです。
- ・ご使用時にカートリッジ内に血液が逆流した場合、感染症の原因となる可能性があるため、複数の患者間で使用しないで下さい。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。